

林 洋介 Yosuke HAYASHI 〈B部門 入選〉

1958年大津生まれの京都育ち、今ではすっかり愛知県人。長年勤めた会社を昨年9月に定年退職し、第二の人生をスタートしたところ。国際アマチュアピアノコンクールB部門2017年、2018年入選。ピティナピアノコンペティショングランミューズ部門B2 カテゴリー2017年全国大会入選、2018年全国大会2位。同志社大学文学部卒業。鈴木彩香氏に師事。

福島 寛太 Kanta FUKUSHIMA 〈B部門 入選〉

小3でピアノを始め、小5で川口市青少年ピアノコンクールで1位となる。中学、高校ではサッカー部で活動し、ピアノとは疎遠になるが大学に入り再開。2018年国際アマチュアピアノコンクールB部門入選、第9回ベートーヴェン音楽コンクール大学・院生B部門4位、第33回JPTAピアノオーディションD部門奨励賞受賞など様々なコンクールで入賞。また早大ピアノの会での多くの演奏会を始め、2017年にはオールショパンリサイタルを開き、2018年にもルーテル市ヶ谷ホールにてソロリサイタルを開催した。

中村 香織 Kaori NAKAMURA 〈B部門 入選〉

徳島大学医学部医学科卒。6歳よりピアノを、37歳よりチェンバロを始める。2007,2008,2010,2011,2012,2013,2014,2015,2016年の国際アマチュアピアノコンクールA部門ファイナリスト、および2011,2012,2015年の同コンクールA部門入選、2017年に同部門第2位受賞。アマコンは今までずっとA部門にしか参加したことがなかったのですが、2018年1月の受賞者演奏会の直後に脳動静脈奇形による脳出血を発症し2ヶ月にわたり入院生活となりました。視野障害も出ていたためピアノに復帰できたのは5月頃のこと、さすがに準備も間に合わず、2018年夏のアマコンはB部門での参加となりました。病み上がりであったにもかかわらず入選をいただけたことを、本当に嬉しく思っております。

野々村 直哉 Naoya NONOMURA 〈B部門 第3位〉

滋賀県出身の埼玉都民。システム開発の仕事の傍ら、ピアノを再開したのが21年前。当初からウィーンワルツが好きで、アマコンでも「ののさんといえばウィーンワルツ！」の路線を維持。紀尾井ホール登場4回目に入賞者演奏会初出場。...本日の1曲は、小澤征爾&ウィーンフィルのニューイヤーコンサートの生演奏で聴いた曲です。ウィーンフィルほどの完成度は出ませんが(笑)、お正月のウィーンにこのような楽しいひとときをお届けできれば幸いです。

池本 卓也 Takuya IKEMOTO 〈B部門 第3位〉

1962年大阪生まれの会社員。7歳よりピアノを始めも中学生で脱落。その後、我流で大学卒業までぼちぼちとピアノを続け、就職とともにまたもや中断、ほぼ四半世紀の冬眠に入る。年齢50を超えてようやくピアノを再開し現在に至る。仲間内では近現代モノが好きと思われているが、実はバロックや古典をしっかり学びたいと思っている。2016年より宮脇貴司氏に師事。

中川 愛子 Aiko NAKAGAWA 〈B部門 第1位〉

大阪府出身。某飲料メーカーの情報会社勤務、社会人2年目。主な仕事は飲み会に参加すること。4歳よりピアノを始める。2008年日本ピアノ教育連盟オーディション高校生部全国大会出場。2014年いかるが音楽コンクール一般大学生・院生最上級部門1位、2018年国際アマチュアピアノコンクールB部門1位。阪大ピアノの会OG。現在、社会人サークル・ショパニスト関西に所属。これまでに本田真奈、松村英臣、佐藤馨、鳥居知行の各氏に師事。

日比野 純子 Sumiko HIBINO 〈A部門 入選〉

自分の実力ではファイナリストが精一杯と思っていましたので、今回初めて入選してびっくりやら嬉しいやら複雑な気持ちです。辛島仔緒子先生には、私の人生の半分以上の年月に渡り、文字通り手取り足取りご指導を賜っています。やっとなんかご恩返しが出来たかしらと思っています。先生にはもちろん、家族の理解と多くの友人達の温かい励まし。好きな事を続けていられる恵まれた環境にある事を感謝しています。名古屋出身。

中村 晃 Akira NAKAMURA 〈A部門 入選〉

神奈川県横浜市生まれ。現在私立大学教員。布施光代、吉山輝、土橋礼佳の各氏に師事。また大学時代にパイプオルガンを植田義子、岩崎真美子の各氏に師事。大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了。国際アマチュアピアノコンクールA部門では、2011年ファイナリスト賞、2012年第3位、2013年第2位、2014年入選、2016年入選、2017年入選、2018年入選、2014年PTNAピアノコンペティショングランミューズ部門A2 カテゴリー全国大会入選。

戸谷 博子 Hiroko TOYA 〈A部門 入選〉

北海道出身。ピアノは5歳より始めるが、高校以降ピアノ以外の世界に関心が移るとともに次第に弾かなくなり、社会人となってからは全く弾かなくなっていた。10年ほど前福岡勤務中に突然ピアノに復帰し、東京勤務に戻ってからは本コンクールにも参加するようになって、今日に至る。巨大なブランクはあったもののピアノを弾く人生にリターンできたことを幸せに感じている。バロックから近現代まで幅広く様々な作曲家の作品を演奏するが、最近はショパンを弾くことがわりと多い。

名越 敬祐 Keisuke NAGOSHI 〈A部門 第2位〉

福岡県出身、兵庫県在住。9歳よりピアノを始めが高校に入りピアノを中断。東京大学に入学後、大学院までオーケストラでトランペットを吹いて過ごす。現在は産業機器メーカーで開発チームのマネジメントをしながら、激務や子育ての合間に趣味のピアノ・筋トレ・飲酒を続けている。スクリーベンにはソナタ9番・4番・2番、幻想曲などを過去に演奏してきましたが、今回のソナタ5番をその集大成として、卒業のつもりで練習してきました！

金谷 勲 Isao KANATANI 〈A部門 第2位〉

兵庫県出身。勤務医。4歳の時に祖母が姉と妹のため買い与えたピアノを期待外れにも私だけが純粋に楽しんで弾くようになったが、今は打ち上げが楽しみで不純にピアノを弾いている。これまでに長富彩、田島佐智子の各氏に師事。2013年ピティナピアノコンペティショングランミューズ部門B2 カテゴリー全国大会第2位、2014年日本バツハコンクールA部門全国大会金賞、国際アマチュアピアノコンクール2017年B部門第1位、2018年A部門第2位。

下村 泰斗 Taito SHIMOMURA 〈A部門 第1位〉

月刊ショパン10月号に「このコンクールの独自性が問われて来ているように感じられる...日壇文化協会が主催する目的をさらに明確にすべき時期に来ているのではないだろうか?」と音楽評論家、渋谷明氏のレポートが掲載されていました。私は、「アマコン」でしか得られないものがたくさんあると思います。まず、杉並公会堂小ホールでのベーゼンドルファー、紀尾井ホールのスタインウェイと素晴らしい響きを体感できること、一流の先生方がアマチュアピアニストのこだわりや寄り添いながら、熱心に専門的な助言をしてくださること、さらに継続して参加すると、以前の演奏を踏まえて成長を応援していただけること、そして、競争にとわかれず、お互いの音楽性を尊重し合いながら率直に語り合い、音楽で繋がっている仲間の輪があること...

